

# 会 議 等 報 告 ( 要 旨 )

---

会議等名称 : 第2回社会教育委員の会議

---

日 時 : 令和3年3月26日(金) 13:30~14:30

---

場 所 : 総合文化センター412号特別会議室

---

## 【社会教育委員】

土門敦委員、園部幸春委員、荒生令悦委員、小野英男委員、齊藤剛士委員、渡辺  
暁雄委員、加藤真知子委員、富士直志委員、小野與一委員、庄司憲昭委員

出席10名、欠席3名

出席者 : 【事務局】

村上教育長、本間教育次長、岩浪図書館長、阿部社会教育文化課長、村井課長補  
佐、深松課長補佐、小野社会教育主査兼係長、長谷川主事、佐々木主事、佐藤専  
門員

出席10名

計20名

---

報 告 : 令和3年4月26日

---

内 容 : 以下のとおり

---

## 1 開 会

委員のご逝去について

## 2 教育長あいさつ

年度末の忙しい時期に開催となり、委員の皆様には大変申し訳ない。私事ではあるが、この3月をもって任期満了となり、教育長を退任することとなった。長い間社会教育委員の皆様からもご理解とご支援をいただき、感謝を申し上げます。これまでを振り返ると、人生100年時代の生涯学習とは何か、自身の現在や未来に落とし込んで考えることが多く、良い勉強をさせていただいた。また、私の任期の期間は教育委員会改革の改革期とちょうど重なっており、教育委員会が形骸化するのではと恐れた時代でもあった。この改革期を経て、教育委員会には二つの機能を持たせることが義務付けられた。一つは運営に対する全体的なチェック機能を持たせること、もう一つは今後の展望性について建設的で開けた意見を取り入れていくこと。このことは学校教育だけでなく社会教育に関しても同じである。本日は今年度実施した事業に対するチェックと、来年度以降の事業に対する建設的なご意見を頂戴したい。私としては予算編成に影響を与えるレベルまでこの社会教育委員の会議の価値を高めていきたかったところではあるが、今後段階的に影響力が強まることを期待したい。本家本元の教育委員会はレイマンコントロールで、むしろ教育に造詣の深い方々を集めているわけではない。しかし社会教育委員は有識者を集めて構成されており、これまでも内部的事情を理解したうえで、思い切った角度からのご意見を頂戴することができた。今後も同じ方向性でお願いしたい。本市の文化芸術・社会教育が市民のものとなるように、新教育長の下我々も努力を重ねていきたい所存であり、引き続き皆様からもご支援をお願いしたい。

## 3 会議

(1) 生涯学習推進計画関連事業について <事務局説明>

委員長	<p>酒田市の社会教育事業は、村上教育長就任のおかげで目覚ましい発展を遂げることができた。</p> <p>今年度事業の成果と課題に関して、来年度事業に対する意見等自由に議論いただきたい。ご意見お話しいただく前に、今年度事業についてなのか来年度事業についてなのか明確に。</p>
委員	<p>今年度事業について。「コロナ禍において創意工夫をもって実施した事業もある」と記されているが、どの事業についてのことか。</p>
事務局	<p>社会教育文化課「酒田愛ごはん講座」は、例年実施している調理実習をメインとした料理講座に代わって企画されたものである。実技を重視するのではなく、食材への知識を深めることを目的としている。従来の発想を変えて実施した例。</p> <p>社会教育文化課「酒田っ子はぐくみ事業」は、むしろ「コロナ禍だからこそ自分ができること」をテーマに、講演を実施している。</p>
委員	<p>自身も食生活改善、食育、地産地消に関わっているが、去年は調理実習を伴う学習が実施できなかった。「酒田愛ごはん講座」の対応は参考になった。</p>
委員	<p>来年度事業について。インターネットを活用した広報情報提供の充実、コミュニティ振興会派遣事業は良い取り組みだと思う。コミュニティ振興会は地域での生涯学習施設としての機能を果たしている。また来年度ミライニへ中央図書館機能が移設されるが、子どもたちが図書に触れる機会を増やすような体制の強化を望む。交流拠点施設であるコミュニティ振興会と図書との繋がりを模索して行ってほしい。</p>
委員	<p>来年度事業について。昨年、コミュニティ振興会のサークル利用は著しく減少した。コミュニティ振興会が企画する講座は、なかなか難しい。高齢者の利用が多いこともあり、聴覚的な理由から密を避けることができない。感染症への不安から、仮に講座を企画したとしても受講者数は減少すると思われる。</p> <p>コミュニティ振興会派遣事業への要望としては、電子機器にまつわる講座を実施していただきたいと思う。中央公民館事業としても企画されているようだが、各コミュニティ振興会にて実施することを望む。</p>
委員	<p>今年度事業について。先日マリーングジュニア合唱団の定期講演会を実施していたが、合唱は感染リスクの高い活動の一つと言われている。酒田市芸術文化協会においても合唱の実施については頭を悩ませているが、酒田市としてはどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>マリーングジュニア合唱団の定期講演会ではマウスガードを着用し、観客は父兄のみに限定した。感染症対策の手厚さの程度については、父兄と相談し了解を得た上で実施している。酒田市が関わるイベント時の合唱は、市と関係団体との協議の中で合意できれば活動を実施できると考えている。</p>

委員長	<p>個人的に合唱団に参加している。歌うこと自体にリラックス効果があるため、極端なことを言えば観客はいなくても満足感がある。なんらかの形で合唱を披露する場さえあれば良いと思う。もちろん歌う人同士での対策は必要だ。</p>
委員	<p>自分も合唱団に所属しているが、練習はできても発表会には抵抗がある。酒田市芸術文化協会としては発表の場をもって、日頃の鍛錬の成果を披露することが目的とも言える。創意工夫をもった対策を模索していきたい。</p>
委員	<p>歌う側が発表の場を求めていることと同じく、聴く側も飢えてきている。創意工夫をもって対策が確立できれば、合唱発表の場は設けても良いと思う。</p> <p>コロナ禍で創意工夫をもって実施した事業といえば、社会教育文化課「アートマルシェ」は大変工夫されていた。複数の場所に分けて開催したことは密を避けただけではなく、市民にとってもこれまで訪れたことのない場所へ訪れるきっかけとなったようだった。</p> <p>今年度事業について。資料を事前に拝見したが、どの事業も課題は同じで「参加者の高齢化」「参加人数の減少・確保の困難化」「コロナ禍でのあり方」「事業のマンネリ化の見直し」があげられている。しかし、これは現代社会において変えようのない現実であり、この現状の中での生涯学習のあり方を考えていかなければいけないのではないだろうか。これらを課題としてあげるのではなく、更に踏み込んで対策を練る必要がある。</p> <p>来年度事業について。前述を踏まえて社会教育文化課「よんでみよう吉野弘事業」は会場をこれまでの総合文化センターからコミュニティセンターへ変更としており、参加者の高齢化や参加人数の減少へうまく対応している。今後は志高く敷居を低く、現実には則した実施方法の検討が柱になっていくと思う。</p> <p>逆に社会教育文化課「デジタル社会対応講座」は、総合文化センター内にある教育研修センターを会場とするようだが、高齢者を対象として考えているのであれば、この事業こそ参加しやすいコミュニティセンターでの実施が望ましい。</p>
委員	<p>寺でもアルコールでの手指消毒の徹底、対面する場でのアクリル板の設置が当たり前になった。また、コロナを原因とした新しい差別が発生しないようお互いに労りの心をもつことを啓発するポスター等を掲示している。</p> <p>寺での行事において、昨年は規模云々を検討する前に中止としたところもあったようだが、自身の寺では規模を縮小し実施できることは実施するという方針だった。</p>
委員	<p>来年度から実施するGIGAスクール構想について、準備は着々と進んでいるが、セキュリティポリシーや故障した際の補償など細かいところをもう少し詰めていかないと子どもたちには配付できない。先行している学校と情報交換しながら慎重に進めている。</p> <p>教員が気になっているのは、今後パンデミックだけではなく大災害が起きてしまった場合、オンラインでの授業に対応できるかということだ。万が一のことが起きても慌てないよう準備をしていこうと話している。</p>

委員長	タブレットの使い方を教員に指導できる人は少ないのではないかな。
委員	外部から講師をお呼びし、各校2回ずつ研修会を実施した。元々電子機器の扱いが得意な教師とそうでない教師に格差がある。一律に足並みが揃わない現状がある。
委員	<p>コロナ禍で児童も自宅で過ごすことが多くなったが、各家庭どのように過ごしているかまでは見えにくい。父兄にアンケートを取ると、制限をしてはいるがインターネットに触れている時間が増えているようだ。</p> <p>次年度は市公式LINEを用いた情報発信を行うようだが、先日報道されたLINEの杜撰な個人情報の取り扱いもあり、このまま進めても大丈夫なのか不安がある。</p>
委員	<p>コロナ禍において企業はオンラインの活用が必須になったと思う。今年度事業について。学校教育課「外国語指導助手招致事業」を拝見して思ったが、青年会議所のメンバーにも最近外国出身者の入会が増えてきた。国際交流は多様性を理解し違いを認め合うことで新しい価値観を育む。コロナ禍を打開するアイデアなども生まれるきっかけになるのではないかな。</p> <p>来年度事業について。酒田市はニュージーランドのホストタウンになっているが、ニュージーランドは若い女性が首相を務めている先進的な国。男女共同参画や生涯学習と絡めて事業を実施してほしい。</p> <p>また、社会教育文化課「よんでみよう吉野弘事業」について、個人的にも感銘を受けた詩人であり、作品に内包された利他の精神は、心に余裕のないコロナ禍においても良い影響を与えることができるだろう。</p> <p>こういった講座や交流を、オンライン上で行うことが出来たら良い。</p>
委員長	来年度事業はほぼ皆さんから触れていただいたと思うが、触れられなかった社会教育文化課「国指定史跡山居倉庫を学ぶ」と「阿部次郎を深堀する」について。里仁館でも類似講座を昨年度実施したが、予想以上に申し込みがあった。市民の関心は高い。

## (2) その他

事務局	第1回社会教育委員の会議において、コミュニティ・スクールについて協議いただいたが、今年度はなかなか前進できず内部での構想にとどまってしまった。しかし、来年度はコミュニティ・スクール専任の社会教育指導員を配置し、学校・地域の実態把握を行う予定。皆様にも引き続きよろしく願いしたい。
委員	以前にもコミュニティ・スクールについて疑問を呈したが、その後すでに導入している遊佐町へ視察に行ってきた。現在酒田市には学校評議員制度があるが、コミュニティ・スクールはその既存の制度を廃止して新たに作るのか。何を目的として導入しようとするのか具体的にしてほしい。
事務局	現在の構想では学校評議員制度をベースとして、それぞれに異なった地域の

	<p>実情に合わせた形を模索していこうと考えている。また地域学校協働活動もコミュニティ・スクールと同時に進めていきたい。学校評議員制度は学校長が学校評議員の意見を聞き指導へ反映させていくが、コミュニティ・スクールは学校運営協議会の構成員が更に踏み込んで、お互いに生徒児童へ働き掛けていく。学校と地域が一つの目標をもって地域の子どもたちを育てていくというイメージ。</p> <p>学校づくりであるコミュニティ・スクールと、地域づくりの地域学校協働活動を、個々の特性に合わせ多様な形で設立していければと思う。</p>
--	--

#### 4 その他

事務局	<p>議事録公開について。個人が特定されないような形で酒田市ホームページ上に公開させていただく。ご理解いただきたい。</p>
-----	--

#### 5 閉 会